

鳥取県地震

2024年（令和6年）11月

鳥取地方気象台

目次

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	2
震度分布図	3
(3) 地震・津波の知識	
阪神・淡路大震災から30年	4

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

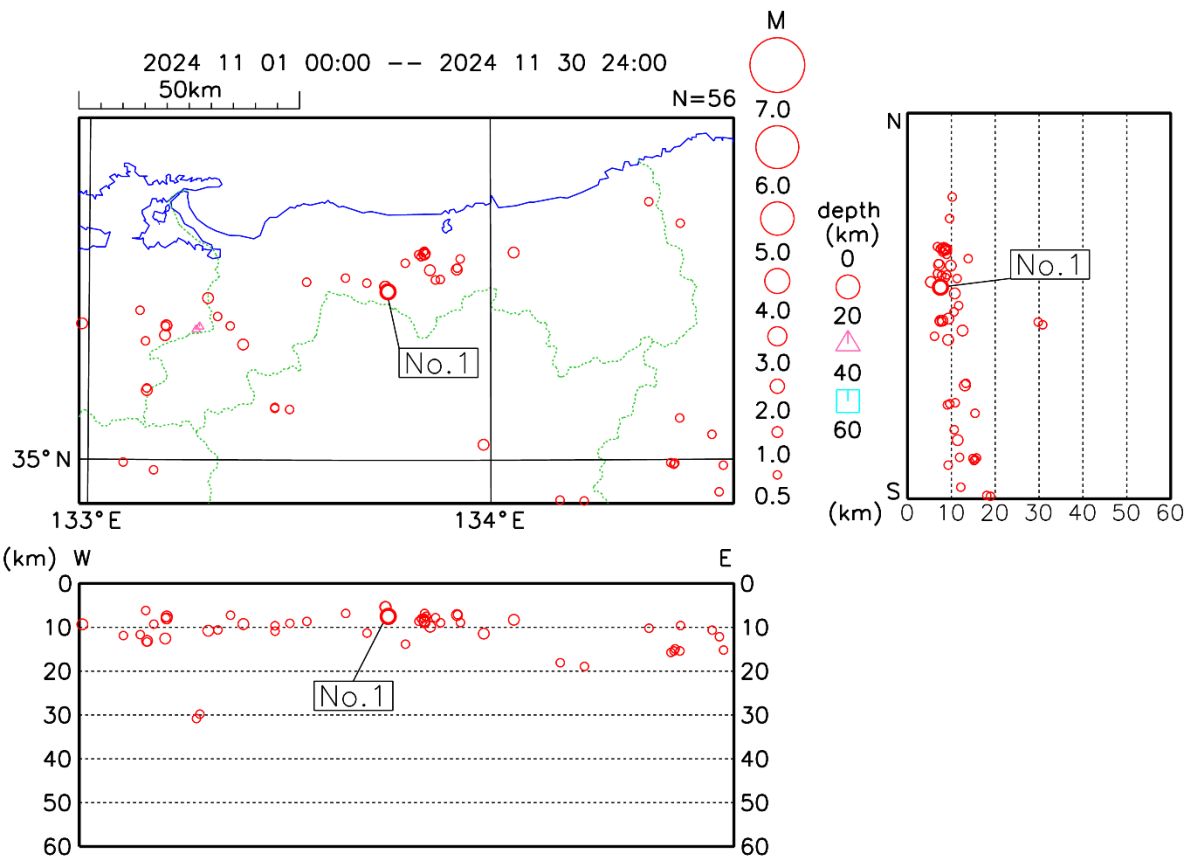
- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。

大阪管内地震活動図URL <https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概 況]

2024 年 11 月に鳥取県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震は 1 回（前月は 0 回）でした。

26 日 22 時 47 分 石川県西方沖の地震（深さ 7km、M6.6：上図の範囲外）と 26 日 22 時 48 分 石川県西方沖の地震（深さ 3km、M5.0：上図の範囲外）により、石川県輪島市・志賀町で震度 5 弱を観測したほか、東北から四国地方にかけて震度 4～1 を観測しました。鳥取県内では鳥取市で震度 3 を観測したほか、県内の多くの地点で震度 2～1 を観測しました。

上記震央分布図内において、M2.0 以上の地震は 1 回（前月は 0 回）でした（番号は震源リストに対応）。

[震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

No.	発震時（年 月 日 時 分）	震央地名	北緯	東経	深さ（km）	マグニ チュード	最大 震度
1	2024 年 11 月 26 日 12 時 56 分	鳥取県中部	35° 20.6' N	133° 44.6' E	8	2.1	—

(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

[鳥取県内で震度1以上を観測した地震及び震度のリスト]

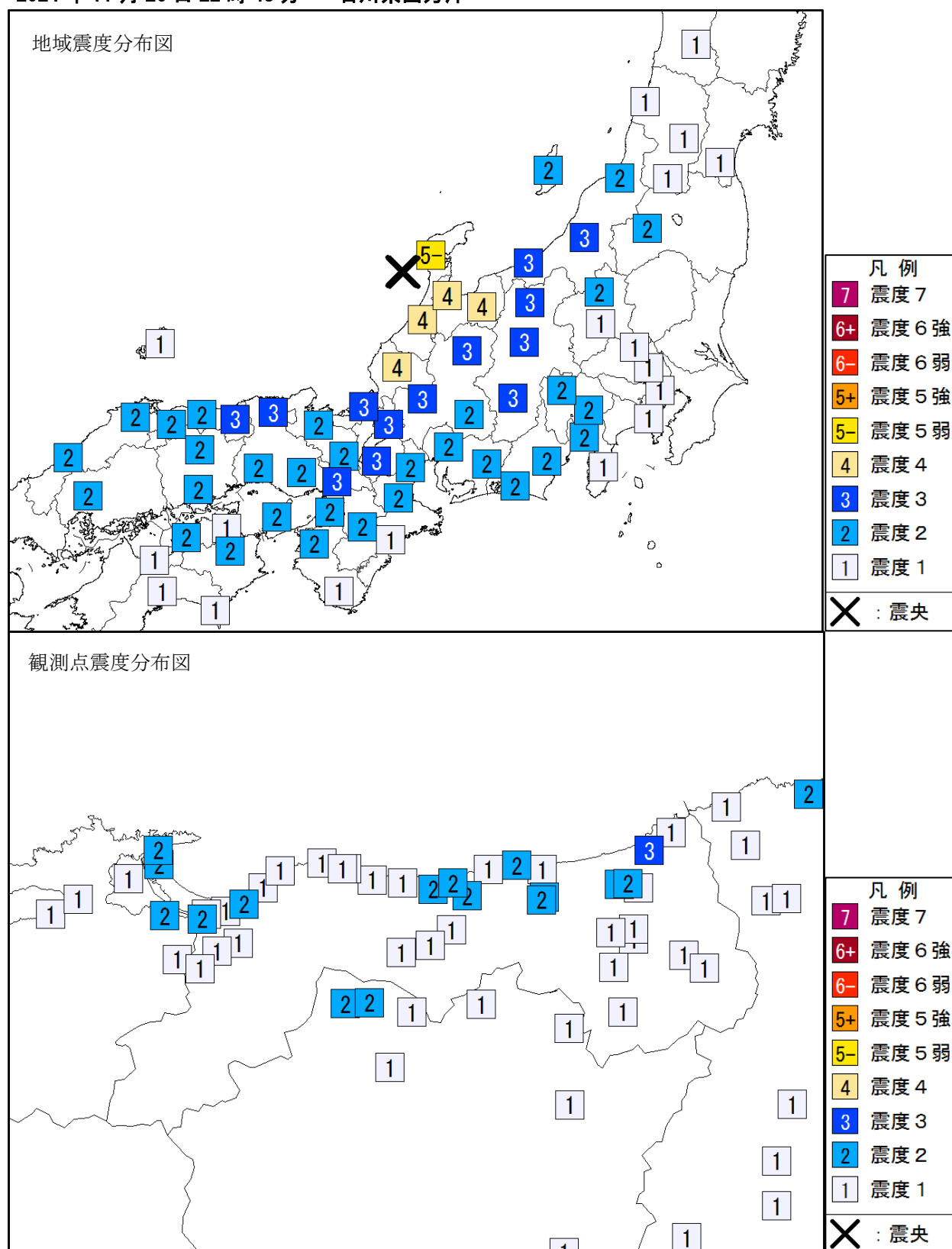
発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード
2024 年 11 月 26 日 22 時 47 分	石川県西方沖	37 ° 00.5' N	136 ° 23.8' E	7km	M6.6
2024 年 11 月 26 日 22 時 48 分	石川県西方沖	37 ° 00.3' N	136 ° 25.8' E	3km	M5.0
----- 地点震度 -----					
鳥取県	震度 3 : 鳥取市福部町細川*				
	震度 2 : 鳥取市吉方, 鳥取市吉成*, 鳥取市鹿野町鹿野小学校*, 鳥取市鹿野町鹿野*, 鳥取市青谷町青谷*, 湯梨浜町久留*, 湯梨浜町龍島*, 北栄町土下*, 米子市東町*, 米子市淀江町*, 境港市東本町, 境港市竹内町*				
	震度 1 : 鳥取市用瀬町用瀬*, 鳥取市国府町宮下*, 鳥取市気高町浜村*, 鳥取市河原町渡一木*, 岩美町浦富, 鳥取若桜町若桜*, 智頭町智頭, 八頭町郡家*, 八頭町船岡*, 八頭町北山*, 倉吉市岩倉長峯, 倉吉市関金町大鳥居*, 三朝町大瀬*, 琴浦町赤碕中学校*, 琴浦町赤碕*, 琴浦町徳万*, 湯梨浜町泊*, 北栄町由良宿*, 米子市博労町, 日吉津村日吉津*, 大山町御来屋*, 大山町末長*, 大山町赤坂*, 鳥取南部町法勝寺*, 鳥取南部町天萬*, 伯耆町吉長*				

- ・ *印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
- ・ 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

[鳥取県内で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図 (図中×は震央)]

2024 年 11 月 26 日 22 時 47 分 石川県西方沖

2024 年 11 月 26 日 22 時 48 分 石川県西方沖

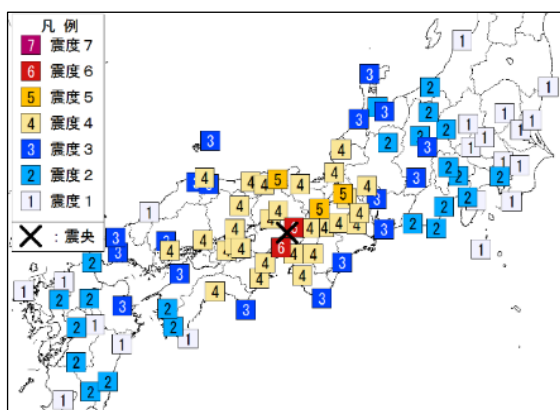


(3) 地震・津波の知識

阪神・淡路大震災から 30 年

阪神・淡路大震災（平成 7 年（1995 年）兵庫県南部地震）から、令和 7 年 1 月 17 日で 30 年となります。

この地震（マグニチュード 7.3）では神戸と洲本で震度 6 を観測し、その後の気象庁の現地調査により、神戸市等阪神淡路地域では震度 7 に相当する揺れが発生していたことが判明しました。



地震による観測点震度分布図



現地調査による震度 7 の分布

この地震は都市部で発生した直下型の地震で、死者は 6,434 名、10 万棟を超える建物が全壊するなど甚大な被害が発生しました。我が国の地震防災対策に関する多くの課題が浮き彫りとなり、それと同時に、その後の社会の仕組みが大きく変わるきっかけになりました。

平成 7 年 6 月、政府は国の責任で地震の調査研究を一元的に扱えるよう「地震調査研究推進本部」を設置しました。

それまで気象庁では職員の体感により観測を行っていましたが、計測震度計により震度 7 まで自動で観測できるよう観測方法を見直しました。

また、自治体でも独自に計測震度計を設置し、初動防災対応に活用するようにし、震度観測点の数は以前の約 300 箇所から約 4,400 箇所まで増えました。それら大量のデータを気象庁が一元的にリアルタイムに取り込むことで、きめ細かい震度情報を発表できるようになりました。この仕組みができたからこそ、その後に緊急地震速報が実現するなど、技術の発展に伴う対策の高度化に繋がっています。

さらに、我が国の建築にも大きな影響を与えました。犠牲者の大半が建物の倒壊によるものであり、地震後間もなくして耐震基準が大きく見直されました。

人的被害	死者		6,434人
	行方不明者		3人
	負傷者	重傷	10,683人
		軽傷	33,109人
住家被害	計		43,792人
	全壊		104,906棟
			186,175世帯
	半壊		144,274棟
			274,182世帯
	一部破損		390,506棟
	合計		639,686棟

阪神・淡路大震災について（確定報）（平成 18 年 5 月 19 日、消防庁）より

そして国民の意識も大きく変わりました。被害を受けた地域では住民が互いに助け合い、全国からも救助や支援に多くの方が関わり、後に「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。

地震などの自然現象は人間の力では止めることはできませんが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を減らすための大きな力となります。それを国や地方公共団体が支援「公助」します。「自助・共助・公助」3つの連携により災害の被害を減らすことができます。

日頃から自分や家族、地域でできることを考え、災害に備えておくことが大切です。

気象庁、大阪管区气象台、神戸地方气象台のホームページでは、「阪神・淡路大震災」特設サイトを設けています。当時を振り返るとともに、今後の地震に適切に備えていただくために必要な防災知識等に関する情報を掲載しています。

- 気象庁 「阪神・淡路大震災」特設サイト
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1995_01_17_hyogonambu/index.html
- 大阪管区气象台 阪神・淡路大震災特設ページ
https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/19950117_hanshinawaji/index.html
- 神戸地方气象台 阪神・淡路大震災のきろく
<https://www.data.jma.go.jp/kobe-c/koho/19950117/19950117.html>

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和6年11月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

URL <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/>

問い合わせ先：鳥取地方气象台

TEL：0857-29-1313